

NSG グループ

2024年3月期 第3四半期決算報告

(2023年4月1日～ 2023年12月31日)

日本板硝子株式会社
執行役常務 CFO
大河内聡人

2024年2月9日

目次

1. 2024年3月期 第3四半期決算概要
2. 2024年3月期 業績予想について
3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗
4. 次期中期経営計画の策定について
5. まとめ

CFOの大河内です。

2ページは本日のご説明内容になります。

本日は始めに2024年3月期の第3四半期決算概要および
2024年3月期の業績予想について、リバイバル計画24 (RP24) に基づく
構造改革施策の主な進捗、そして次期中期経営計画の策定についてご説明いたします。

1. 2024年3月期 第3四半期決算概要

連結損益計算書



自動車用ガラス事業の改善が継続し、累計では引き続き増収増益。

10-12月期の営業利益は、欧州における経済減速と異例のアルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受ける

(億円)	10-12月期 (3か月)			累計 (9か月)		
	2023年 3月期	2024年 3月期	差異	2023年 3月期	2024年 3月期	差異
売上高	1,906	1,925	20	5,662	6,127	465
営業利益	97	61	△ 37	242	321	79
営業利益率	5.1%	3.2%	△ 1.9pt	4.3%	5.2%	+0.9pt
個別開示項目 (純額)	10	6	△ 4	△ 439	9	449
個別開示項目後営業利益 (△損失)	107	67	△ 40	△ 198	330	528
金融費用 (純額)	△ 48	△ 64	△ 16	△ 113	△ 204	△ 91
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	-	37	37
持分法による投資利益	21	15	△ 6	54	37	△ 17
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	△ 4	△ 1	3	△ 11	10	21
税引前利益 (△損失)	77	17	△ 60	△ 268	211	479
当期利益 (△損失)	22	36	14	△ 348	141	489
純利益 (△損失)*	17	37	21	△ 372	135	507
EBITDA	202	170	△ 31	544	650	107

2024年2月9日

2024年3月期 第3四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

10-12月期は、アルゼンチン大統領交代に伴う異例の通貨切り下げの影響を受けたが、累計では自動車用ガラス事業で大幅な増収増益を継続

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年同期比】

(億円)	売上高	営業利益
建築用	△12	+0
自動車用	+474	+104
高機能	△1	△15
その他	+4	△9
グループ全体	+465	+79

前年は欧州自動車用ガラス事業ののれんと無形資産の減損損失を計上

欧米の市場金利上昇に伴い金融費用が増加

第1四半期にロシアJVの売却に伴い、過去に計上した金融債権および投資に対する減損損失の戻入益を計上

まず、4ページの連結損益計算書からご説明いたします。

ご覧の表の左側が第3四半期 (3か月) の業績、右側が累計 (9か月) の業績です。

当第3四半期 (10-12月期) の売上高は、自動車用ガラス事業で増収となり前年同期比20億円の増収で1,925億円でした。累計9か月でも前年同期比465億円、8%の増収で6,127億円となり、増収を継続しました。

営業利益は、当第3四半期は前年同期比37億円減益で61億円でした。前年同期比でエネルギー価格が低下しましたが、欧州における経済活動の減速と当第3四半期においてアルゼンチン大統領交代に伴う異例のアルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受け減益となりました。

営業利益への為替影響の詳細については、次のスライドでご説明いたします。

累計では前年同期比79億円、33%増益で321億円でした。

当第3四半期における異例のアルゼンチン・ペソ切り下げの結果、

累計の営業利益は約40億円押し下げられましたが、自動車用ガラス事業では大幅な増益を継続したため、累計では増益となりました。

営業利益率は、前年同期比0.9ポイント改善、5.2%となっています。

営業利益より下の項目を見て頂くと、累計の個別開示項目収益は9億円でした。

前年度第2四半期において、欧州自動車用ガラス事業ののれんと無形資産の減損損失488億円を計上していたため前年同期から449億円の改善となりました。

金融費用は、欧米の市場金利上昇に伴い前年同期比91億円増となり、純額で204億円でした。

持分法適用会社については、第1四半期に、ロシアにおけるジョイント・ベンチャーを売却しました。これに伴い、過去に計上した持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の戻入益37億円を計上し、また投資の一部に対する過去の減損損失の戻入益を計上したため、持分法投資に関するその他の利益は10億円となりました。

以上、営業利益と持分法適用会社に関する利益を認識した結果、累計の税引前利益は211億円、当期利益は141億円、純利益は135億円と前年同期比増益でした。

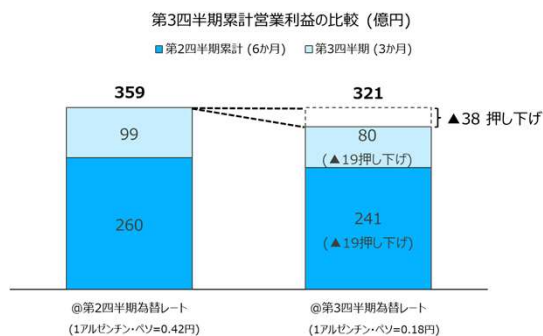
営業利益における為替影響

10-12月期の営業利益は為替の影響を受けて減少。

異例のアルゼンチン・ペソ切り下げに伴うものであり、現地通貨ベースでは強い需要により好調

累計 (9か月) 営業利益

- ・ 期中平均レートを使用 (アルゼンチン・ペソは期末レート)
- ・ 第3四半期累計の営業利益321億円を第2四半期為替レートで換算すると359億円
→ 為替影響により営業利益を約40億円押し下げ (黒点線)



10-12月期 (3か月) 営業利益

- ・ 第3四半期累計と第2四半期累計との差額
- ・ 公表上：61億円 (赤点線)
- ・ 実際：80億円 (青点線)
第2四半期累計の営業利益260億円は、第3四半期には為替影響により241億円に減少



続いて5ページ目です。

先ほど第3四半期において、異例のアルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受けたと申し上げましたが、その詳細についてこちらで説明します。

当社グループでは、アルゼンチンを除く他の国々の子会社の売上高や利益は期中平均の為替レートを用いて日本円へ換算し連結損益計算書へ反映していますが、アルゼンチンの子会社については、国際会計基準の超インフレ会計の処理に従い、期末日の為替レートを用いて反映しています。

このため、当第3四半期連結累計期間における売上高と利益については、切り下げ後のアルゼンチン・ペソの為替レートを用いて連結財務諸表に反映しています。アルゼンチン・ペソは第3四半期において、新大統領の経済政策により異例に切り下げられた結果、1アルゼンチン・ペソ=0.42円から1アルゼンチン・ペソ=0.18円と50%超ペソ安が進みました。

ただし、アルゼンチンでの需要は旺盛で、前年第3四半期に稼働を開始した同国2基目のフロート窯の貢献もあり、現地通貨ベースでの営業利益は引き続き好調です。

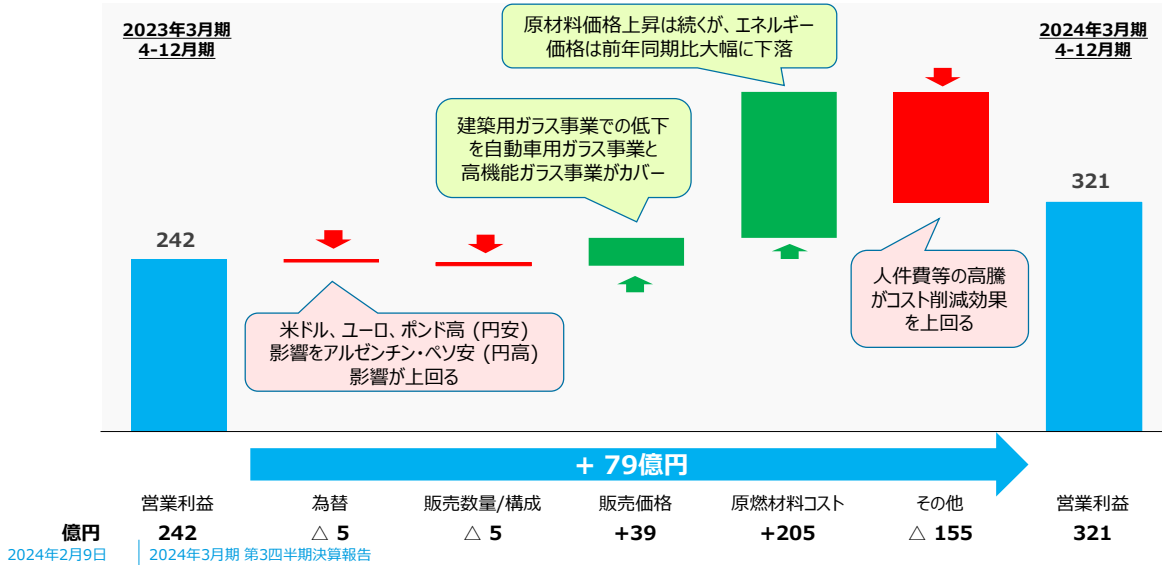
左側が累計の営業利益 (9か月) への為替影響、右側が10-12月期 (3か月) への為替影響を示しています。

まずは左側、第3四半期累計営業利益についてです。
累計の営業利益は321億円でしたが、これを第2四半期の為替レートで換算した場合、約40億円増加し359億円になります。
この増加分のほぼ全ては、アルゼンチン・ペソの為替影響に伴うものです。
すなわち、第3四半期累計の営業利益は異例のアルゼンチン・ペソ切り下げにより約40億円減少したことになります。

続いて右側、第3四半期3か月の営業利益への影響です。
当第3四半期3か月の営業利益は、第3四半期累計と第2四半期累計の営業利益の差で求めます。
第3四半期累計は321億円、第2四半期累計は260億円でしたので、第3四半期の営業利益は公表上は61億円となりました。
しかし、第2四半期累計の260億円も第3四半期の為替レートで換算される結果、241億円に減少します。
このため、321億円と241億円の差額である80億円が実際の第3四半期の営業利益となります。
なお、この80億円の営業利益を第2四半期の為替レートで換算すると99億円になります。

営業利益差異分析 (4-12月期累計)

エネルギー価格は前年同期比で大きく下落。
販売価格改善もあり原材料費およびその他コスト増加の影響を吸収



6ページは、4-12月期 (9か月) の営業利益について前年度第3四半期累計の営業利益242億円と、当第3四半期累計の営業利益321億円との差異、79億円の差異分析です。

「為替」は、5億円のマイナスでした。
米ドル・ユーロ・ポンド高 (すなわち円安) による影響を、異例のアルゼンチン・ペソ切り下げに伴うアルゼンチン・ペソ安 (すなわち円高) の影響が上回りました。

「販売数量/構成」は自動車用ガラス事業で改善したものの、建築用ガラス事業と高機能ガラス事業で減少し、5億円のマイナスとなりました。

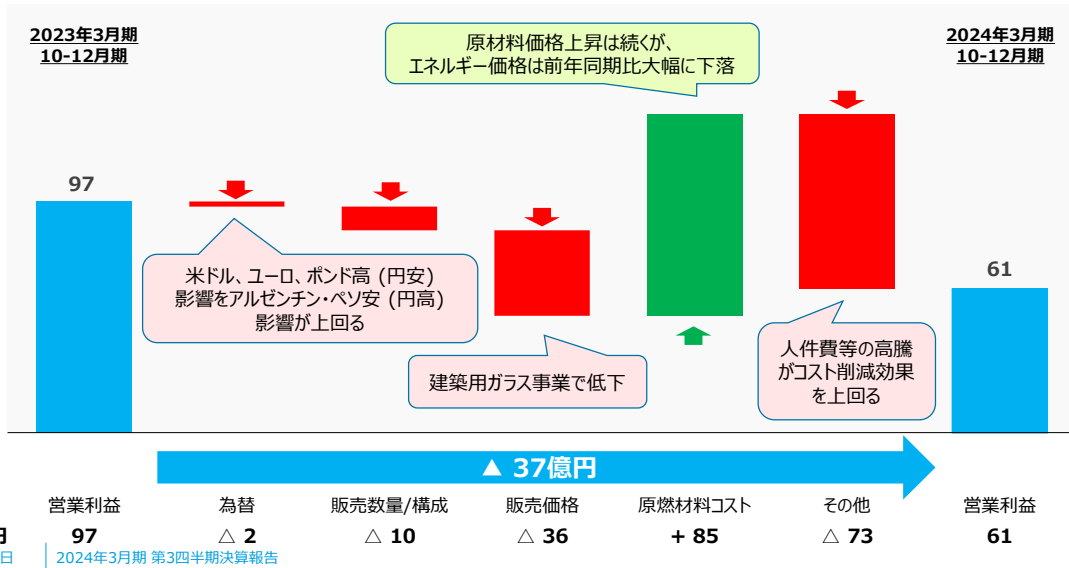
「販売価格」は、39億円のプラスでした。
販売価格は建築用ガラス事業で燃料価格下落もあり低下しましたが、自動車用ガラス事業と高機能ガラスの価格転嫁の進捗に伴い改善しプラスとなりました。

「原燃材料コスト」は、205億円のプラスでした。
原材料価格上昇の影響を受けましたが、欧州の天然ガス価格を中心にエネルギー価格が前年同期比で大幅に下落したことによるプラスの影響が上回りました。

「その他」は、155億円のマイナスとなりました。
世界的なインフレ傾向を受け、人件費などのコストが上昇し、リバイバル計画24 (RP24) の施策であるコスト構造改革等の成果を上回りました。

営業利益差異分析 (10-12月期)

その他コスト増加と欧州建築用ガラス事業における販売価格低下の影響をエネルギー価格の下落が軽減



7ページは、第3四半期の営業利益について前年度第3四半期の営業利益97億円と、当第3四半期の営業利益61億円との差異、37億円の差異分析です。

「為替」は、2億円のマイナスでした。米ドル・ユーロ・ポンド高 (すなわち円安) による影響を、異例のアルゼンチン・ペソ切り下げに伴うアルゼンチン・ペソ安 (すなわち円高) の影響が上回りました。

「販売数量/構成」は、自動車用ガラス事業で販売数量が増加したものの、建築用ガラス事業と高機能ガラス事業において減少したため10億円のマイナスでした。

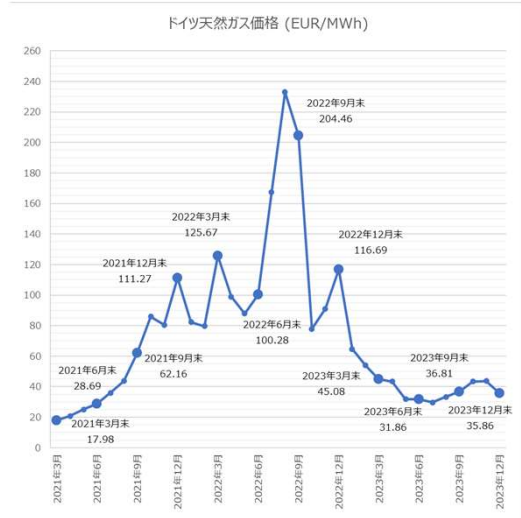
「販売価格」は、36億円のマイナスでした。欧州建築用ガラス事業のエネルギー価格および経済活動の減速に伴う販売価格のマイナス影響が自動車用ガラス事業と高機能ガラス事業での価格転嫁の進捗による改善を上回りました。

「原燃材料コスト」は、85億円のプラスでした。原材料価格上昇の影響は続きましたが、欧州の天然ガス価格を中心にエネルギー価格が前年同期比で大きく下落したため大きくプラスとなりました。

「その他」は、73億円のマイナスとなりました。世界的なインフレ傾向を受け、人件費などのコストが上昇し、リバイバル計画24 (RP24) の施策であるコスト構造改革等の成果を上回りました。

エネルギー価格の推移

ドイツの天然ガス価格：第3四半期はほぼ安定的に推移
日本の重油価格：第2四半期に続き高値で推移



続きまして、8ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、
右側が日本の重油の市場価格の推移になります。

ドイツにおける天然ガスの価格は第3四半期は、
大きな変動は無く、ほぼ安定的に推移しました。
日本における重油価格は第2四半期に引き続き高値で推移しました。

連結貸借対照表



アルゼンチン・ペソ切り下げの影響にもかかわらず、自己資本比率は11.6%と前期末比で1.4pt改善。
 RP24の目標数値である10%超を維持

(億円)	2023年 3月末	2023年 12月末	増減
資産合計	9,514	9,535	21
非流動資産	6,151	6,359	208
流動資産	3,363	3,176	△ 187
負債合計	8,265	8,206	△ 59
流動負債	3,844	3,082	△ 762
非流動負債	4,421	5,124	703
資本合計	1,249	1,329	80
親会社の所有者に帰属する持分	970	1,109	139
自己資本比率 (%)	10.2%	11.6%	+1.4pt
ネット借入	4,079	4,591	512

為替影響による有形固定資産の増加

主に短期借入金から長期借入金へのシフト

純利益の計上により自己資本比率11%超

主に運転資本の増加に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスおよび円安影響により借入金が増加

9ページは連結貸借対照表になります。

2023年12月末時点の総資産は9,535億円となり
 2023年3月末時点から21億円増加しています。

非流動資産は、円安の影響を受け有形固定資産が増加した結果
 208億円の増となりました。

流動負債は、短期借入金から長期借入金へのシフトにより
 762億円の減となる一方で、非流動負債は703億円増加しました。

親会社の所有者に帰属する持分は、異例のアルゼンチン・ペソ切り下げの影響にも
 かかわらず純利益の計上により139億円増加し、1,109億円でした。

この結果、自己資本比率は前期末比で1.4ポイント上昇の11.6%となり、
 RP24の財務目標数値である自己資本比率10%以上を維持できています。

ネット借入は、主に運転資本の増加に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスと
 円安の影響により借入金が増加したため、512億円増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書



累計のフリー・キャッシュ・フローは運転資本の増加に伴いマイナスだが、10-12月期はプラス。通期でRP24の目標数値である100億円以上を目指す

(億円)	10-12月期 (3か月)			4-12月期累計 (9か月)		
	2023年 3月期	2024年 3月期	差異	2023年 3月期	2024年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 31	158	189	83	192	108
(うち、運転資本の増減)	△ 172	72	244	△ 326	△ 241	85
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 88	△ 96	△ 8	△ 297	△ 316	△ 18
(うち、有形固定資産の取得)	△ 93	△ 119	△ 26	△ 284	△ 397	△ 113
フリー・キャッシュ・フロー	△ 119	62	181	△ 214	△ 124	90
財務活動によるキャッシュ・フロー	113	△ 130	△ 243	128	△ 129	△ 258
現金及び現金同等物の増減	△ 6	△ 68	△ 62	△ 86	△ 253	△ 167
現金及び現金同等物 期末残高				528	462	△ 66

10-12月期は運転資本が改善

戦略投資の増加および為替影響

累計でも、運転資本の増加を除くとプラス。通期でRP24の目標数値である100億円以上を目指す

10ページは、連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、累計9か月間では、運転資本の削減が進捗し、前年同期より108億円の増で、192億円のプラスでした。当第3四半期（10-12月期）の3か月間でも、前年同期より189億円の増で158億円のプラスと改善傾向にあります。これは主に四半期利益の計上と運転資本の改善によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、累計で前年同期比マイナスが18億円増加し316億円のマイナスでした。主に、マレーシアおよび米国における太陽電池パネル用ガラスへの設備投資をはじめとした戦略事業への投資が増加したこと、主要通貨の円安もあり有形固定資産の取得が増加したためです。

以上により、累計のフリー・キャッシュ・フローは124億円のマイナスとなりましたが、当第3四半期では62億円のプラスと改善傾向にあります。過去2年に引き続き通期ではRP24の財務目標であるフリー・キャッシュ・フロー100億円以上を目指します。

セグメント情報



(億円)	2022年3月期 4-12月期			2023年3月期 4-12月期			2024年3月期 4-12月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
建築用ガラス事業	2,069	47%	204	2,757	49%	262	2,745	45%	262	△ 12	0
欧州	842	19%		1,180	21%		1,071	17%		△ 108	
アジア	647	15%		748	13%		827	13%		79	
米州	579	13%		830	15%		847	14%		17	
自動車用ガラス事業	2,033	46%	△ 59	2,584	46%	△ 11	3,059	50%	93	474	104
欧州	864	20%		1,076	19%		1,272	21%		196	
アジア	444	10%		494	9%		595	10%		101	
米州	725	16%		1,015	18%		1,192	19%		178	
高機能ガラス事業	308	7%	78	298	5%	72	296	5%	57	△ 1	△ 15
欧州	59	1%		68	1%		76	1%		8	
アジア	240	5%		218	4%		207	3%		△ 11	
米州	9	0%		12	0%		14	0%		2	
その他	20	0%	△ 77	23	0%	△ 82	27	0%	△ 91	4	△ 9
合計	4,430	100%	145	5,662	100%	242	6,127	100%	321	465	79

2024年2月9日 | 2024年3月期 第3四半期決算報告

11

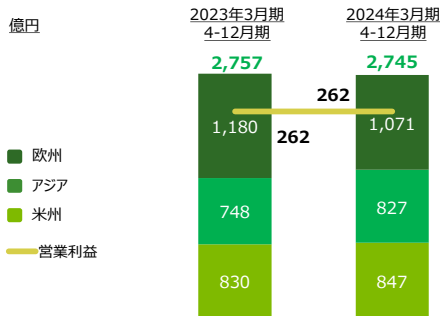
11ページは、事業セグメント毎に過去3か年度の累計の売上高および営業利益を示しています。各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

建築用ガラス事業 (累計: 減収・増益 10-12月期: 減収・減益)



減収だが累計の営業利益は前年同期比と同水準を維持。

10-12月期は欧州の経済活動の減速と異例のアルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受け減収減益



欧州 (累計: 減収・減益 10-12月期: 減収・減益)

- 経済活動の減速に伴い販売数量・販売価格が低下
- 市場環境の悪化による影響はエネルギー価格の下落により軽減

アジア (累計: 増収・増益 10-12月期: 増収・増益)

- 日本では需給改善に伴い販売価格および販売数量が改善
- その他の東南アジアでは競合が続き販売価格が低下
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調。マレーシアの設備も12月より稼働開始

米州 (累計: 増収・増益 10-12月期: 減収・減益)

- 北米は需要が軟化し、販売数量減少
- 南米は好調な需要が継続、アルゼンチンの新フロート窯稼働もあり販売数量増加。日本円ベースでは、第3四半期のアルゼンチン・ペソ安影響を受ける
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

(億円)	10-12月期(3か月)			累計(9か月)		
	2023年3月期	2024年3月期	差異	2023年3月期	2024年3月期	差異
売上高	936	816	△ 120	2,757	2,745	△ 12
欧州	391	336	△ 55	1,180	1,071	△ 108
アジア	258	279	△ 21	748	827	79
米州	287	201	△ 86	830	847	17
営業利益	107	44	△ 63	262	262	0

2024年2月9日

2024年3月期 第3四半期決算報告

12

12ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、累計では欧州での販売数量減少・販売価格低下によるマイナスを、アジアや米州における強い需要が上回ることができず、減収となりました。しかしながら営業利益は、原材料費および人件費等その他コスト上昇の影響を受けたものの、エネルギー価格が前年同期比で大幅に下落したため同水準を維持しました。一方、10-12月期は欧州と米州で販売数量および販売価格が低下し、異例のアルゼンチン・ペソ切り下げ影響もあり減収減益でした。

欧州は、減収減益となりました。

中長期的には新築のみならずリフォームによる底堅い需要が見込まれるものの、インフレの進行と金利上昇により経済活動の減速が続き、販売数量が減少し、販売価格も低下しました。

これらの影響に加えインフレ傾向を反映した原材料費や人件費を中心としたその他コストが上昇しましたが、エネルギー価格が前年同期比で大幅に下落したことにより軽減しました。

アジアは、増収増益でした。

日本では、断熱ガラスに対する政府補助金制度の施行等による需給の改善に伴い、引き続き販売価格と販売数量が改善しました。

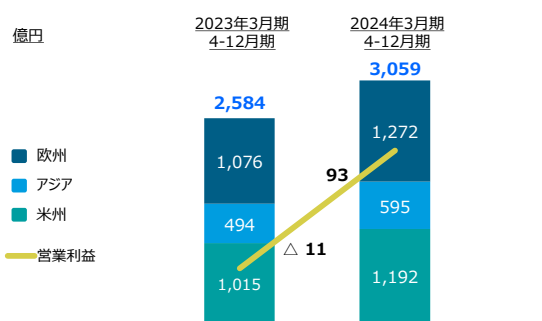
その他の東南アジアの国々では、競合が依然続き、販売価格が低下しています。太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調に推移しています。

マレーシアの太陽電池パネル用ガラスの設備は2023年12月から生産を開始し、今後は収益にも貢献する見込みです。

米州は、累計では増収増益でしたが、10－12月期は減収減益となりました。
北米は、需要が軟化し販売数量が減少しました。
南米は、強い需要が継続しており、前年度第3四半期に稼働した
アルゼンチンの新フロート窯による販売数量増加も、収益に寄与しました。
現地通貨ベースではこれまで通り好調ですが、日本円ベースでは、
第3四半期における異例のアルゼンチン・ペソの切り下げによる影響を大きく受けました。
太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調で、
米国オハイオ州ロスフォードの既存フロート窯に製造設備を新設する計画を発表しました。

自動車用ガラス事業 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益) NSG GROUP

販売価格改善や販売数量増加等により事業全体では前年同期比で増収増益を継続



欧州 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・減益)
 アジア (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)
 米州 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)

- 部品不足による自動車生産制約の影響が緩和し、多くの地域で販売数量が増加
- 原材料およびその他コスト増加を転嫁するための価格改善交渉がさらに進捗、販売価格が改善
- 引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を推進

(億円)	10-12月期(3か月)			累計(9か月)		
	2023年 3月期	2024年 3月期	差異	2023年 3月期	2024年 3月期	差異
売上高	866	1,007	141	2,584	3,059	474
欧州	377	434	57	1,076	1,272	196
アジア	170	212	42	494	595	101
米州	319	362	43	1,015	1,192	178
営業利益	6	30	24	△ 11	93	104

2024年2月9日 | 2024年3月期 第3四半期決算報告

13

13ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、当第3四半期も引き続き増収増益で、着実に収益改善が進捗しています。

サプライチェーンの問題による自動車生産の制約が緩和し、多くの地域で販売数量が増加しています。

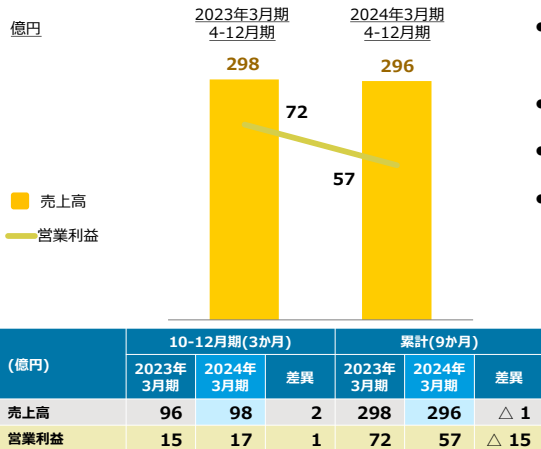
また、原材料および人件費等その他コスト上昇の影響を緩和するための自動車メーカーに対する価格改善交渉もさらに進展し、全地域で販売価格が改善しました。

引き続き継続的なコスト削減努力や製品の高付加価値化とともに販売価格改善も進め、収益性改善に努めてまいります。

高機能ガラス事業 (累計：減収・減益 10-12月期：増収・増益)



IT市場減速、原燃材料およびその他コスト上昇、売上構成の悪化の影響を継続して受けるが
10-12月期は前年同期比で増収増益



- ファインガラスでは、IT市場減速の影響を受け販売数量が減少し売上構成も悪化
- プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業向けの需要が減少
- グラスコードは自動車生産制約の緩和に伴い回復
- メタシャイン® は自動車塗料および化粧品向けで増加

2024年2月9日 | 2024年3月期 第3四半期決算報告

14

続きまして14ページです。

高機能ガラス事業は、累計ではIT市場減速、原燃材料およびその他コスト上昇と売上構成悪化の影響を受け、減収減益でしたが、10-12月期は前年同期比では増収増益となりました。

ファインガラスは、IT市場減速の影響を受け販売数量が減少し、売上構成の悪化もあり収益性が低下しました。

プリンター用レンズは、在宅勤務およびオンライン授業向けの需要が減少したことに伴い、販売数量が減少しました。

グラスコードの販売数量は、取引先におけるサプライチェーンの問題が解消したことに伴い回復しました。

メタシャイン®は自動車塗装および化粧品向けで売上高が増加しました。

2. 2024年3月期 業績予想について

2024年3月期 業績予想



異例のアルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受けるも、売上高および営業利益は前回予想を維持。
着実な成長により引き続き2008年のリーマンショック以降の営業最高益を目指す

(億円)	2024年3月期 通期予想 (前回)	2024年3月期 通期予想 (今回)	増減	2023年3月期 通期実績 (参考)
売上高	8,400	8,400	-	7,635
営業利益	420	420	-	348
個別開示項目(純額)	0	0	-	△ 452
個別開示項目後営業利益(△損失)	420	420	-	△ 103
金融費用(純額)	△ 290	△ 290	-	△ 174
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	40	40	-	-
持分法による投資利益	50	50	-	73
持分法投資に関する その他の利益(△損失)	10	10	-	△ 15
税引前利益(△損失)	230	230	-	△ 219
当期利益(△損失)	140	140	-	△ 310
純利益(△損失)*	120	130	10	△ 338

2024年2月9日 | 2024年3月期 第3四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失)

16

続いて2024年3月期の業績予想です。
スライド16ページは2024年3月期の通期業績予想になります。

表の左側から、2024年3月期の前回通期予想、今回通期予想と増減、
前年2023年3月期通期実績と並んでおります。

今般、第3四半期において異例のアルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受けましたが、
売上高および営業利益は前回予想を維持しました。
現在の事業環境下でも収益を上げることができており、
通期営業利益予想は420億円としています。
着実な成長により引き続きリーマンショック以降の営業最高益を目指します。
なお、一方で非支配持分に帰属する当期利益もアルゼンチン・ペソ切り下げの影響に
より減少するため、純利益は10億円増加する見込みです。

数値予想の前提は、次のスライドでご説明いたします。

2024年3月期 業績予想の前提



グループ	異例のアルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受けるも、売上高および営業利益は前回予想を維持。RP24の最終年として、重点施策「財務基盤の回復」を推進 <ul style="list-style-type: none"> 主要通貨の円安は継続するが、異例のアルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受ける エネルギー価格は安定的に推移するものの、世界的なインフレ拡大等で原材料やその他コスト増加は継続 景気後退等リスクにより事業環境は依然不透明だが、コスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続
建築用ガラス	日本、南米、太陽電池パネル用ガラスで好調な需給環境が継続、一方で欧米の経済減速リスクに注意 <ul style="list-style-type: none"> 欧州：投入コストの増加と景気減速による販売数量減少の影響を受けるが、エネルギー価格低下により軽減 アジア：日本の販売数量および販売価格が改善するが、その他の東南アジア地域での競合が続く見込み 北米：需要が軟化し、販売数量が減少 南米：良好な需給環境とアルゼンチンの新フロート窯も貢献するが、アルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受ける 太陽電池パネル用ガラス：堅調な需要が続き、マレーシアの設備の稼働開始も収益に貢献
自動車用ガラス	原燃材料費高騰の影響が続くが、販売数量は増加する見込み <ul style="list-style-type: none"> 全地域で引き続き在庫積み上げが継続し、強い自動車需要をけん引する見込み 自動車生産の制約解消に伴い販売数量が徐々に回復 自動車メーカーと、投入コスト増加を軽減するための価格改善交渉を継続 引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により更なる収益性改善を目指す
高機能ガラス	コスト上昇およびIT市場の減速に伴う需要減少の影響が続く <ul style="list-style-type: none"> ファインガラスは、市場減速の影響が継続する見込みだが、コスト削減を継続 プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業に伴う需要減少により販売数量減少が継続 ガラスコードは、自動車生産の制約解消に伴い販売数量が徐々に回復

2024年2月9日

2024年3月期 第3四半期決算報告

17

スライド17に移ります。

グループ全体の前提としては、

主要通貨での円安が継続する一方で、異例のアルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受けると見えています。

エネルギー価格は安定的に推移するものの、世界的なインフレ拡大などの影響を受け原材料や人件費等その他のコストが増加し、また欧米を中心とした景気後退等のリスクにより依然不透明な事業環境が続く見込みです。

引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続し、業績改善に努めます。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業は、

欧州においては、投入コスト増加と景気減速による販売数量の減少影響を受けますが、天然ガスを中心としたエネルギー価格低下によりこれらの影響を軽減します。

アジアでは、需給環境の改善に伴い、日本では数量増加と値上げ効果も継続すると見えています。

一方でその他の東南アジア地域では引き続き競合が続くと見ており、状況を注視する必要があります。

北米では、第3四半期に続き需要が軟化し、販売数量も減少する見込みです。

南米ではタイトな需給環境やアルゼンチンの新フロート窯が貢献する想定ですが、アルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受けると見込んでいます。

太陽電池パネル用ガラスは、堅調な需要を継続し

2023年12月に稼働開始したマレーシアにおける設備も収益に貢献します。

自動車用ガラス事業では、
原燃材料費高騰の影響は続きますが、
全地域で強い自動車需要と在庫積み上げの動きが継続するため
販売数量が増加する見込みです。
また、自動車メーカーとの価格改善交渉は継続する計画です。
引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を進め、
更なる収益力の向上を目指します。

高機能ガラス事業では、
投入コスト上昇およびIT市場の減速に伴う需要減少の影響を受けますが、
依然比較的高い利益率を確保できると見えています。

RP24の最終年度として、全社的なコスト削減、高付加価値製品の拡大および
価格改善により潜在的なリスクの影響を軽減し、
引き続き収益性の改善と通期業績予想の達成に注力してまいります。

3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗



持続的な成長が可能な事業体質を目指し主要施策を推進

3つの改革

● 事業構造改革

- ・ アルゼンチン2基目の新フロート窯が収益に貢献
- ・ マレーシアの既存フロート窯で、太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備が2023年12月より稼働開始
- ・ 米国オハイオ州ロスフォードの既存窯に太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備新設を発表。暦年2025年1~3月の出荷開始を予定



マレーシアの太陽電池
パネル用ガラス製造設備

2つの重点施策

● 財務基盤の回復

- ・ 営業利益率 : 原材料費高騰の下、コスト削減、高付加価値製品の拡大、販売価格上昇により5.2%
- ・ 純利益 : 増益が続く営業利益および第1四半期のジョイント・ベンチャー売却に伴う戻入益の計上もあり、累計で135億円
- ・ 自己資本比率 : 純利益計上もあり前期末から1.4pt改善し11.6%と目標数値である10%を上回る
- ・ FCF : 第3四半期はプラス。累計でも運転資本増加を除くとプラス。通期での目標数値である100億円以上達成を目指す

2024年2月9日

2024年3月期 第3四半期決算報告

RP24 説明資料:

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf

19

リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革について、
19ページで主要な進捗を説明します。

2024年3月期も中期経営計画RP24の最終年として主要施策を継続、
推進しています。

RP24では持続的な成長が可能な事業体質を目指して
「3つの改革」と「2つの重点施策」を掲げています。

「事業構造改革」では、高付加価値事業の拡大・新規成長分野の育成を進めています。
アルゼンチンで2基目となる新フロート窯が前年度第3四半期から生産を開始し、
収益に貢献しています。

太陽電池パネル用ガラスはすでに当社の収益とともに環境にも貢献していますが、
設備新設を行っていたマレーシアの既存フロート窯では、2023年12月から
生産を開始しており、今後収益に貢献する見込みです。

また米国においても、ファーストソーラー社の米国での生産能力拡張方針に沿って、
オハイオ州ロスフォードの既存フロート窯へのオンラインコーティング設備新設による
太陽電池パネル用ガラスの製造ラインへの改修を発表しました。

2025年1月~3月の出荷開始を予定しています。

続いてRP24に基づく構造改革の「2つの重点施策」の「財務基盤の回復」について
ご説明します。

「財務基盤の回復」についてはRP24の財務目標数値として
営業利益率8%、純利益3年累計300億円、自己資本比率10%、
フリー・キャッシュ・フロー100億円の目標を設定し、推進しています。

営業利益率は原材料およびその他コスト上昇の中、コスト削減、
高付加価値製品の拡大、販売価格上昇により5.2%でした。
純利益についても、好調な業績や第1四半期においてロシアにおけるジョイント・ベンチャー
売却に伴う戻入益の計上もあり、累計で135億円となっており着実に改善しています。
自己資本比率は前期末から1.4ポイント改善し11.6%となり、
財務目標数値超を維持しています。
フリー・キャッシュ・フローは第3四半期ではプラス、
累計でも運転資本増加を除くとプラスでした。
通期での目標数値である100億円以上の達成を目指します。

4. 次期中期経営計画の策定について

次期中期経営計画の策定について（前回分再掲）



現中期経営計画（RP24）
～2024年3月期

構造改革が収益成長に結実

「コスト構造改革」
+
「事業構造改革」



営業利益は2008年の
リーマンショック以降最高へ

2022年3月期（実績）：200億円
2023年3月期（実績）：348億円
2024年3月期（予想）：420億円

2024年2月9日

2024年3月期 第3四半期決算報告

次期中期経営計画（イメージ）
2025年3月期～

4つの「D」（Decarbonization, Digital, Development, Diversity）
をキーワードに、さらなる収益力強化、財務基盤改善を目指す

- **キャッシュ・フロー創出**
 - ・ 収益成長事業の拡大（Decarbonization、Digital）
 - － 建築用：太陽光発電パネル用ガラス
リノベーション需要の取り込み
 - － 自動車用：CASEやEVに対応した高付加価値製品
 - － 高機能：脱炭素化、高度情報化対応製品
 - ・ 研究開発・事業開発体制の強化（Development）
- **ボラティリティ耐性向上**
 - ・ グループ経営基盤強化と効率化（Digital Transformation）
 - ・ サプライチェーン見直しや余剰キャパシティ削減等の継続的な推進
- **サステナビリティ**
 - ・ 2050年カーボンニュートラル（Decarbonization）
 - ・ 人的資本経営、DEI（Diversity, Equity & Inclusion）
- **財務**
 - ・ PBRやROE改善等株主価値向上や資本コストを意識した経営
 - ・ 有利子負債削減、A種種類株式への対応、復配に向けた考え方

21

21ページは次期中期経営計画の策定についてです。

第2四半期に説明した内容を再掲しています。

これまで説明申し上げた通り、現中期経営計画RP24の下では、コスト構造改革や事業構造改革を中心とした構造改革が収益成長に結実し、営業利益も年々改善しています。

これを踏まえ次期中期経営計画では、4つの「D」

（Decarbonization, Digital, Development, Diversity）をキーワードに、さらなる収益力強化、財務基盤改善を目指し策定中であり、2024年5月に発表する予定です。

5. まとめ

まとめ



1. 2024年3月期 第3四半期決算

- 第3四半期は欧州における経済活動の減速とアルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受けるが、累計では増収増益を継続
- エネルギー価格は前年同期比で大幅に下落。販売価格改善もあり原材料費およびその他コスト増加の影響を吸収
- 自動車用ガラス事業では販売数量が回復、価格転嫁も進捗し収益改善
- グループ全体の営業利益率は5.2%。自己資本比率は11.6%、RP24の財務目標数値である10%超を維持

2. 2024年3月期 業績予想

- 異例のアルゼンチン・ペソ切り下げの影響を受けるが、通期売上高・営業利益は前回予想を維持。引き続き2008年のリーマンショック以降、営業最高益を目指す
- エネルギー価格は落ち着くものの、世界的なインフレ拡大等で原材料やその他コスト増加は継続
- 景気後退等リスクにより事業環境は依然不透明だが、コスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続

3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

- 事業構造改革 : マレーシアの太陽電池パネル用ガラスの新設備で生産開始。
米国の既存窯に太陽電池パネル用ガラスの設備新設を発表。2025年1~3月に出荷開始予定
- 財務基盤の回復 : 営業利益率はグループ全体で5%超に、自己資本比率も11%超。
RP24の最終年にあたり、引き続き重点施策「財務基盤の回復」を推進

4. 次期中期経営計画の策定について

- 4つの「D」をキーワードに、さらなる収益力強化、財務基盤改善を目指す内容で2024年5月公表予定

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境および競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料



- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高および営業利益
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- ガラス価格の推移

連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2022年 3月期				2023年 3月期				2024年 3月期		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期
売上高	1,477	1,430	1,523	1,576	1,779	1,977	1,906	1,973	2,080	2,122	1,925
営業利益 (△損失)	72	55	18	55	83	62	97	107	146	115	61
営業利益率	4.8%	3.9%	1.2%	3.5%	4.6%	3.1%	5.1%	5.4%	7.0%	5.4%	3.2%
個別開示項目 (その他)	△ 2	47	△ 2	△ 7	23	△ 473	10	△ 12	△ 8	11	6
個別開示項目後営業利益 (△損失)	70	102	17	48	106	△ 411	107	94	138	125	67
金融費用 (純額)	△ 29	△ 29	△ 32	△ 34	△ 28	△ 37	△ 48	△ 61	△ 64	△ 77	△ 64
持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の戻入益 (△損失)	-	-	-	△ 34	-	-	-	-	37	-	-
持分法による投資利益	15	19	22	19	22	10	21	20	10	12	15
持分法投資に関するその他の利益 (△損失)	-	-	-	△ 34	△ 12	5	△ 4	△ 4	11	△ 0	△ 1
税引前利益 (△損失)	55	92	7	△ 36	88	△ 434	77	49	133	61	17
当期利益 (△損失)	29	67	10	△ 38	33	△ 403	22	38	75	30	36
純利益 (△損失)*	25	61	0	△ 45	24	△ 412	17	34	70	27	37
EBITDA	165	146	111	144	180	161	202	207	253	226	170

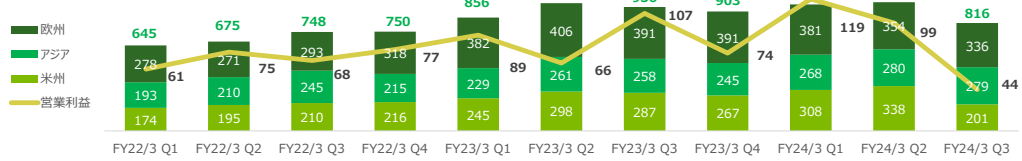
*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

事業部門別・地域別売上高および営業利益 四半期別推移

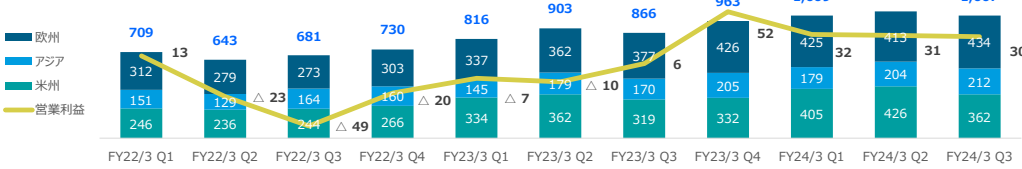


単位：億円

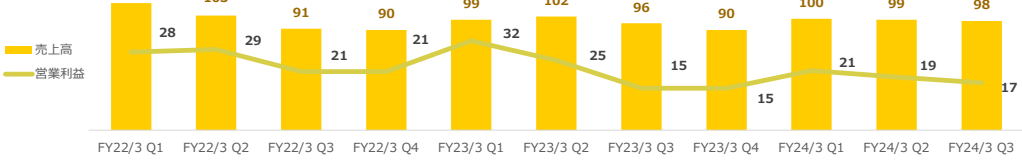
建築用ガス事業



自動車用ガス事業



高性能ガス事業



セグメント情報



(億円)	2022年3月期					2023年3月期					2024年3月期			
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	累計
売上高: 建築用ガラス	645	675	748	750	2,818	856	965	936	903	3,659	958	972	816	2,745
欧州	278	271	293	318	1,160	382	406	391	391	1,571	381	354	336	1,071
アジア	193	210	245	215	862	229	261	258	245	992	268	280	279	827
米州	174	194	210	216	795	245	298	287	267	1,096	308	338	201	847
営業利益	61	75	68	77	281	89	66	107	74	336	119	99	44	262
売上高: 自動車用ガラス	709	643	681	730	2,762	816	903	866	963	3,547	1,009	1,043	1,007	3,059
欧州	312	279	273	303	1,167	337	362	377	426	1,502	425	413	434	1,272
アジア	151	129	164	160	604	145	179	170	205	699	179	204	212	595
米州	246	236	244	266	992	334	362	319	332	1,347	405	426	362	1,192
営業利益	13	△ 23	△ 49	△ 20	△ 79	△ 7	△ 10	6	52	41	32	31	30	93
売上高: 高性能ガラス	114	103	91	90	398	99	102	96	90	388	100	99	98	296
欧州	21	18	20	20	79	21	25	22	27	95	25	26	26	76
アジア	90	82	68	66	306	75	73	70	58	276	71	69	67	207
米州	3	3	3	4	13	4	5	4	4	16	4	5	5	14
営業利益	28	29	21	21	99	32	25	15	15	87	21	19	17	57
売上高: その他	9	8	3	7	27	8	7	9	18	41	13	8	5	27
営業利益	△ 31	△ 25	△ 22	△ 24	△ 101	△ 31	△ 19	△ 31	△ 34	△ 115	△ 27	△ 34	△ 30	△ 91
売上高: 合計	1,477	1,430	1,523	1,576	6,006	1,779	1,977	1,906	1,973	7,635	2,080	2,122	1,925	6,127
営業利益	72	55	18	55	200	83	62	97	107	348	146	115	61	321

2024年2月9日 | 2024年3月期 第3四半期決算報告

地域別売上高および営業利益



(億円)	2023年3月期 4-12月期			2024年3月期 4-12月期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	2,324	41%	62	2,419	39%	39	95	△ 23
アジア	1,459	26%	161	1,629	27%	231	170	70
米州	1,856	33%	100	2,053	34%	142	196	42
その他 *	23	0%	△ 82	27	0%	△ 91	4	△ 9
合計	5,662	100%	242	6,127	100%	321	465	79

* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

個別開示項目

(億円)	2023年3月期 4-12月期	2024年3月期 4-12月期
子会社の売却による利益	15	10
係争案件の解決に係る収益 (△費用) 純額	27	9
有形固定資産等の減損損失の戻入益	1	2
棚卸資産の評価減	-	△ 2
リストラクチャリング費用	△ 2	△ 3
非流動資産の減損損失	-	△ 6
固定資産売却による利益	6	-
のれん及び無形資産の減損損失	△ 488	-
その他	1	△ 0
個別開示項目 純額	△ 439	9

為替レート・為替感応度



期中平均レート

	2022年 3月期				2023年 3月期				2024年 3月期			2024年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	期初見直し
英ポンド	153	152	153	153	163	163	164	163	172	177	179	160
ユーロ	132	131	131	130	138	139	140	141	150	153	154	134
米ドル	109	109	112	112	129	134	137	135	138	140	143	134
ブラジル・レアル	20.6	20.8	20.7	21.0	26.4	26.4	26.5	26.3	27.7	28.6	29.0	24.8
アルゼンチン・ペソ	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用											

期末レート

	2022年 3月期				2023年 3月期				2024年 3月期		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
英ポンド	153	150	156	160	165	161	160	165	183	182	181
ユーロ	132	129	131	136	142	141	140	145	158	157	157
米ドル	111	112	116	122	136	145	132	133	145	148	143
ブラジル・レアル	22.3	20.6	20.4	25.5	26.2	26.7	25.7	26.2	29.8	29.5	29.2
アルゼンチン・ペソ	1.16	1.13	1.12	1.10	1.09	0.98	0.76	0.64	0.57	0.42	0.18

為替感応度

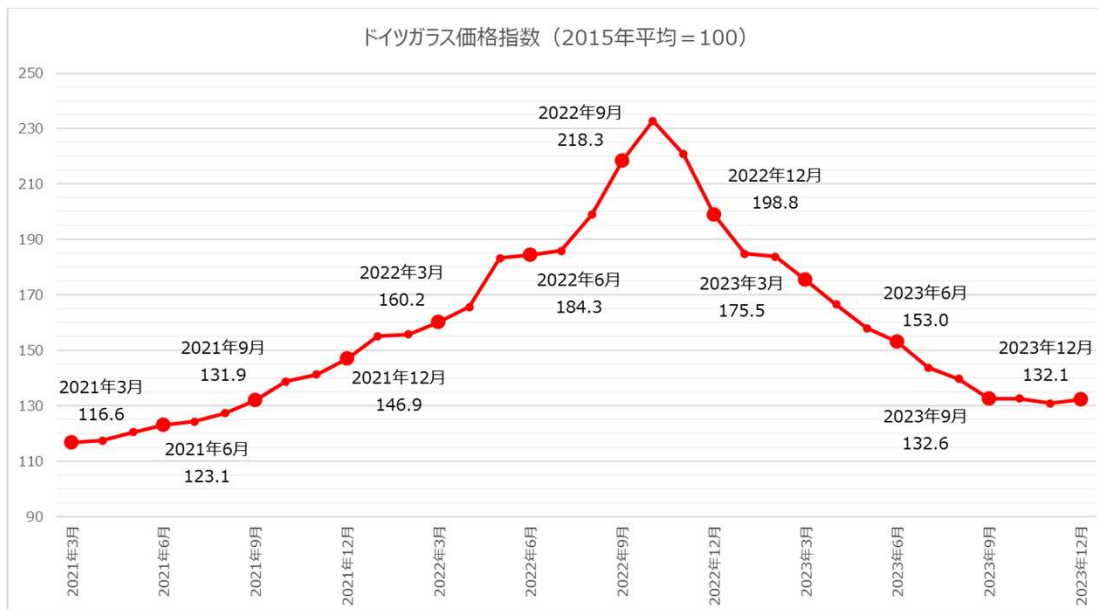
他の前提に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の影響額

	2023年 3月期
資本	30.0億円の減少
当期損失	4.0億円の改善

減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2023年3月期 4-12月期	2024年3月期 4-12月期	2024年3月期 見通し
減価償却費	302	329	440
資本的支出	263	385	477
通常投資	226	248	
戦略投資	37	137	
研究開発費	68	74	100
建築用ガラス事業	21	24	
自動車用ガラス事業	20	23	
高機能ガラス事業	7	6	
その他	20	21	

ガラス価格の推移



NSG

GROUP